

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技
【結果速報】

試合 M15 準々決勝3

【2025/8/19】

鹿児島南	8	0 4 4 0 — — — — 3 2 4 4	13	埼玉栄
PSO				

審判1 新井睦士

審判2 蛸名広貴

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	山口 諒真	28	13	19%
GK13	山田 瑛進	0	0	

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	山口 大和	22	8	43%
GK13	黒田 陽太	1	0	

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	山口 諒真			
2	宮本 郡志	2		
3	平川 歓大			2
4	石田 海斗			
5	藤本 恵太	11	5	
6	揚野 悠聖	3	1	1
7	牟田 翔樹	7	2	3
8	越智 稟斗			
9	有村 鳳晟			
10	金丸 瑛大			
11	古川 暖真			
12	原田 悠成			
GK13	山田 瑛進			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	山口 大和			
2	小久保 旭	2	1	
3	吉川 道太郎	1		
4	稲垣 拓哉	8	3	1
5	菊池 俊来	4	3	
6	茂呂 明	2		
7	曾根 翔英			
8	池田 大空	5	2	3
9	遠藤 樹吹			
10	木嶋 美駆	3	2	
11	狩野 一勘	3	2	
12	村田 了皇			
GK13	黒田 陽太			

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>


令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月19日（火）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

15

帽子の色 白

帽子の色 青

鹿児島南

8

0 - 3

4 - 2

4 - 4

0 - 4

PSO

埼玉栄

13

審判1：新井 睦士

審判2：蛭名 広貴

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月19日（火）、山口きらら博記念公園水泳プールにて準々決勝・ゲーム番号15、鹿児島南高等学校（白帽）と埼玉栄高等学校（青帽）の一戦が行われた。九州予選2位通過で前日の長浜北星高校との接戦を制して勝ち上がった鹿児島南と、初戦に乙訓高校を破り勢いに乗る埼玉栄。実力と気迫が拮抗する両者の戦いは、最後まで観客を引き込む熱戦となった。

第1ピリオド、先手を取ったのは埼玉栄だった。⑥茂呂の粘りから退水を獲得すると、⑧池田が冷静に先制点を決める。続いて⑤菊池がゴール前で巧みに相手をかわして追加点。終盤には⑤菊池のリバウンドからペナルティを誘い、④稲垣が確実に沈めるなど、埼玉栄は攻撃の幅を見せつける。キャプテン④稲垣のボール奪取も光り、初回を3-0でリード。鹿児島南はGK①山口の安定した守備で失点を最小限に抑えつつも、攻撃陣が得点を奪えず苦しい立ち上がりとなった。

しかし第2ピリオド、鹿児島南はキャプテン⑦牟田の奮闘から流れを引き寄せる。⑦牟田が粘り強くペナルティを獲得すると、⑤藤本が冷静に決めて反撃開始。その後も⑤藤本はミドルのループやワンタッチと多彩な形で連続得点を挙げ、攻撃を活性化させた。終盤には再び⑤藤本の退水誘発から⑦牟田が力強いシュートを決め、このピリオドを4点と攻撃力を爆発させた。埼玉栄も⑤菊池と⑧池田が速攻から得点し意地を見せたが、このピリオドは鹿児島南が主導権を握り、4-2で制した。前半を終えてスコアは4-5、鹿児島南が1点差に詰め寄り、会場は緊張感に包まれた。

第3ピリオドはまさに白熱のシーソーゲームとなった。鹿児島南は⑥楊野が持ち味の得点力を発揮。鋭いミドルを突き刺すと、③平川や⑥楊野（※退水獲得）から展開された華麗なパスワークの末、⑤藤本が得点。⑦牟田も存在感を示し、チームを鼓舞した。対する埼玉栄も⑪狩野がミドルでキーパーのタイミングを外し、④稲垣も逆サイドからシュートを沈める。さらに②小久保が速攻を決めるなど、一歩も引かない攻撃を展開。このピリオドは互いに4点ずつを奪い合い、スコアは8-9。最後まで勝敗の読めない展開が続いた。

迎えた第4ピリオド、勝負を決めたのは埼玉栄の勝負強さだった。開始早々、キャプテン④稲垣がフリースローシュートを決め、流れを呼び込む。さらに⑤菊池や②小久保が退水を誘発し、素早いパスワークから⑩木嶋が加点。終盤には稲垣がカウンターから鋭い一撃を突き刺し、⑩木嶋もボール奪取から自ら持ち込みゴールを決めるなど、畳みかけるような攻撃を披露した。鹿児島南はタイムアウトで流れを変えようとしたが、最後まで追加点を奪えず、このピリオドを0-4で落とした。試合は8-13で埼玉栄高等学校が勝利。勝者となった埼玉栄は、④稲垣を中心としたリーダーシップと⑤菊池のオールラウンドな働き、⑧池田や⑪狩野らの決定力が噛み合い、終盤にかけての爆発力で勝負を決めた。組織的なディフェンスも整備され、相手の強力な得点源を要所で抑え込む見事な戦いぶりであった。

一方、敗れた鹿児島南も賞賛に値する。GK①山口の安定した守備は何度もチームを救い、⑥楊野は高い得点能力を発揮して相手を脅かした。⑤藤本や⑦牟田も攻撃の軸として存在感を放ち、特に第2ピリオドでの連続得点は観客を大いに沸かせた。最後まで組織的に守り、果敢に攻め続けた姿勢は、敗戦の中にも強い光を放っていた。

結果は埼玉栄の勝利となったが、両校が見せた激しい攻防と互いの意地のぶつかり合いは、高校水球の魅力を余すところなく表現するものだった。勝者も敗者ともに胸を張れる内容であり、観戦した誰もが拍手を惜しまなかった一戦であった。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原